

新卒看護師の離職の兆候と離職希望者へのサポートに関する研究：プリセプターのとまどいに焦点をあてて

著者	大久保 明子, 栗生田 友子, 横田 陽子, 西方真弓, 郷 更織
雑誌名	看護研究交流センター年報
巻	21
ページ	3-4
発行年	2010-09
URL	http://hdl.handle.net/10631/870

新卒看護師の離職の兆候と離職希望者へのサポートに関する研究

—プリセプターのとまどいに焦点をあてて—

大久保明子¹⁾，粟生田友子¹⁾，横田陽子²⁾，西方真弓³⁾，郷 更織¹⁾

1) 新潟県立看護大学，2) 群馬県立県民健康科学大学，3) 新潟大学医学部保健学科

キーワード：プリセプター，とまどい，新卒看護師

研究目的

初めてプリセプターを経験する看護師が，担当した新卒看護師を指導する中で経験した“とまどい”，あるいは，“指導のしやすさ”の要因を明らかにし，新卒看護師（以下，プリセプティとする）の指導体制について考察することを目的とした。

研究方法

1. 研究協力者：初めてプリセプターを担っている看護師7名
2. 調査期間：2009年7～12月
3. 調査方法：プリセプターのとまどった体験や指導しやすいと感じた体験等について半構成的面接を実施（1～2回/1人）。面接内容は協力者の許可を得て録音した。
4. 分析方法：語りを逐語録に起こし，“とまどい”と“指導のしやすさ”に着目して文章または段落ごとに切片化してラベル名を付けた後，意味内容に沿って分類し，抽象化したカテゴリー名を命名。研究者間で一致が得られるまで検討した。
5. 倫理的配慮：新潟県立看護大学の倫理審査で承認を受け，研究協力者と同意書を取り交わしてから実施した。

結果

1. 研究協力者の概要

研究協力者は，4名が女性で2名が男性だった。看護経験年数は，3年目が5名，4年目と9年目が各1名だった。

2. プリセプティを指導するプリセプターのとまどいの要因（表1）

プリセプターのとまどいの様相は，“むずかしさ”“もどかしさ”“わからない”“いらだち”“迷い”などとして語られた。プリセプターのとまどいの要因として，＜プリセプティの個人特性＞＜プリセプティへの指導方法＞＜プリセプティとの関係性＞＜プリセプター自身の要素＞の4つが抽出された。

各要因の構成要素は以下の通りである。＜プリセプティの個人特性＞には，「感情を表現しない」「やる気が感じられない」「責任感がない」，＜プリセプティへの指導方法＞には，「指導の段階や時期の見極め」「指導による手ごたえのなさ」「打開策が見いだせない」「管理者との指導方針の違い」，＜プリセプティとの関係性＞には，「異性のプリセプティとの関係性」「プリセプティとの距離感」，＜プリセプター自身の要素＞には，「周囲からの重圧による負担感」「指導能力不足による自責感」「プリセプティへの過剰な気づかい」があった。

3. プリセプティの指導のしやすさに関わる要因（表2）

プリセプターが捉えた指導のしやすさに関わる要因として，＜プリセプティの素養＞＜プリセプターの素養・力量＞＜指導体制＞＜病棟の雰囲気・人間関係＞の4つが抽出された。プ

プリセプティの素養は「自主性をもって仕事や学習に臨める」「意思表示できる」で、プリセプターの素養・力量は「看護経験年数から生ずるゆとりがある」「自らも学ぶ姿勢がある」「プリセプティとの関係を調整できる」「周囲にサポートを求められる」「指導者のモデルを見出せる」「やりがいを見出せる」であった。また、指導体制は「プリセプターの役割が明示されている」「プリセプターを支援する体制がある」、病棟の雰囲気・人間関係は「相談できる人がいる」「新人指導に対する病棟全体の温かい雰囲気がある」「病棟全体の人間関係がよい」であった。

表 1. プリセプティを指導するプリセプターのとまどいの要因

要因	構成要素	要因	構成要素
プリセプティの個人特性	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を表現しない ・やる気が感じられない ・責任感がない 	プリセプティとの関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・異性のプリセプティとの関係性 ・プリセプティとの距離感
プリセプティへの指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の段階や時期の見極め ・指導による手ごたえのなさ ・打開策が見いだせない ・管理者との指導方針の違い 	プリセプター自身の要素	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲からの重圧による負担感 ・指導能力不足による自責感 ・プリセプティへの過剰な気づかい

表 2. プリセプティの指導のしやすさに関わる要因

要因	構成要素	要因	構成要素
プリセプティの素養	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性をもって仕事や学習に臨める ・意思表示できる 	指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・プリセプターの役割が明示されている ・プリセプターを支援する体制がある
プリセプターの素養・力量	<ul style="list-style-type: none"> ・看護経験年数から生ずるゆとりがある ・自らも学ぶ姿勢がある ・プリセプティとの関係を調整できる ・周囲にサポートを求められる ・指導者のモデルを見出せる ・やりがいを見出せる 	病棟の雰囲気・人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる人がいる ・新人指導に対する病棟全体の温かい雰囲気がある ・病棟全体の人間関係がよい

考察

プリセプターのとまどいは、“やる気がない”“責任感がない”などのプリセプティの個人特性が大きく影響していた。プリセプティの“やる気”や“責任感”をどう養うかが当然課題となるが、既に個人に培われている特性を生かすためには、プリセプティとプリセプターとの組み合わせを考慮することも必要かもしれない。また、プリセプターによっては負担や自責を強く感じてしまうということもあるため、プリセプター自身が周囲のサポートをうまく活用できるように配慮することが必要であろう。

プリセプターの「指導のしやすさ」とは、指導者本位の「やりやすさ」ではなく、プリセプティとの関係性の中で「うまくやれている」感覚が生じていることである。本研究においての指導のしやすさには、自主的で自ら意思表示ができるというプリセプティの素養が大きく関わっていた。また、プリセプター自身の素養・力量としての指導に対する気持ちの余裕、共に学ぶ姿勢、プリセプティとの関係調整能力、必要時にサポートを求められることなどが指導のしやすさに影響していると考えられた。プリセプターがこれらの指導能力を発揮するために、指導体制の充実、病棟の雰囲気・人間関係の調整が不可欠であり、今後プリセプターの指導能力の獲得に関する研究が必要であることが示唆された。